i・report
No.509
一関出張所
一関市狐禅寺字石ノ瀬155-81
Tel：0191-23-2435
Fax：0191-23-6841
ichinoseki report 2021.3.11

◆一関出張所管内を流れる東北地方で一番大きい北上川は、平泉文化が栄えた背景に深く関わっていたことをシリーズ化してご紹介しています。

北上川と共に生きた平泉文化　第14弾

ー平泉文化を後世に残すため［国の取り組み］ー

守られた柳之御所遺跡

数々の出土品と調査でわかったこと

国土交通省では、一関遊水地堤防とバイパスのルートを北上川側に変更することで、柳之御所遺跡を保存することにしました。出土品や調査からどのようなことが分かったのでしょうか。

遺跡の概要

遺跡は、幅10m、深さ3m、総延長500m以上の長大な堀に囲まれた南東部（堀内部地区）と、堀の外側の北東部（堀外部地区）に分かれています。

平泉全体図

堀の内側

堀内部地区には、塀を廻らせ、大型の堀立柱建物や苑池、井戸などが配置されています。堀には橋が架かり、外部との出入り口になっていました。

塀や井戸からは膨大な数のかわらけが出土し、中国製の陶磁器や、様々な木製品・金属製品なども発見されました。これらの出土品から、堀内部地区は、政治・行政上の重要拠点「平泉館」であると考えられるようになりました。

堀の外側

堀外部地区には、中尊寺方向へ向かう幅約7mの道路を中心に、複数の屋敷地が並んでいたと推測されています。井戸跡の一つからは平泉でも出土量が少ない青白磁碗が出土していることから、この屋敷地には、奥州藤原氏の一族や重臣が住んでいたのではないかと考えられています。

主な出土品

写真提供／平泉文化遺産センター

ひしゃく

このひしゃくは井戸跡から出土しました。水分が多く含まれるという条件の良さから、ほぼ完全な形で見つかりました。

折敷

宴会や食事の時に、皿や箸を並べたお膳が折敷です。絵を描いたり、文字を書いたり、様々な使われ方をしていました。

中国江西省景徳鎮産青白磁碗

使われなくなった井戸を埋める時に行われる、「井戸鎮め」の儀式の際に納めたものと考えられます。

かわらけ

約10トンも出土した、平泉を代表する土器で、儀式や宴会に用いられる使い捨ての食器。作り方はロクロ作りと手づくねがあります。

烏帽子

烏帽子は、身分が高い人がかぶる物です。漆が塗られ、水分の多い井戸跡に埋められていたため腐らずに残っていました。

すごろく駒

すごろくに使われたと思われる、長さ1.9cm、高さ1.0cmの駒です。赤褐色の石を円盤状に加工しており、表面にはすれた痕がみえます。

碁石

柱穴から、ひらべったい小石が出土。黒が11個、白が5個あり、ひとつの穴からまとまって発見されたことから碁石と推定されます。

砥石

刃物を研いだりする石。これだけで年代を特定するのは難しく、出土した場所や一緒に出土した他の遺物から年代を確認しています。

籌木

現代でいうトイレットペーパーのこと。スギ材を板状に細長く加工したものがほとんどですが、まれに竹で作られたものもあります。

渥美大甕

愛知県渥美半島で作られた、高さが90.4cmと渥美産の大甕としては最大。堀外部地区で見つかった溝から、破片で出土しました。

※北上川学習交流館　あいぽーと展示資料より

※バックナンバーはこちら　http://www.thr.mlit.go.jp/iwate/syuttyouiyo/itinoseki/2020/2020_ichinoseki.htm
第1弾　NO.467　第2弾　NO.468　第3弾　NO.470　第4弾　NO.478　第5弾　NO.479　第6弾　NO.480
第7弾　NO.482　第8弾　NO.486　第9弾　NO.487　第10弾　NO.493　第11弾　NO.495　第12弾　NO.506　第13弾　NO.508

編集後記

3.11から10年が経ちました。復興は進みましたが、未だ爪痕が残っている所もあります。自然災害はいつ起こるかわかりません。再び起こっても冷静に動けるよう、いまいちど防災対策を確認しましょう（す）